

CITIZEN

2020年度（2021年3月期）
第1四半期決算説明会

シチズン時計株式会社
2020年8月14日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

広報・IR担当の古川です。

本日はご多用のところ、当社第1四半期決算の電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。

早速ですが、第1四半期の決算の概況について、ご説明いたします。

■ 2020年度第1四半期実績 減収減益

新型コロナウイルスの影響等により、主力の時計事業、
工作機械事業が大幅減

■ 2020年度通期業績予想

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響を現時点で
合理的に算定することが困難な状況であることから未定

■ 2020年度配当予想

未定とするが、業績連動だけでなく、配当の安定性を
重視

まず、今回の決算の主なポイントについて説明させていただきます。

当社の第1四半期実績ですが、
新型コロナウイルスの感染拡大により世界的にロックダウンが実施された影響等を受け、主力の時計事業が前年同期比64.1%の減収、同じく工作機械事業が36.0%の減収となるなど、大きく落ち込みました。

また、2020年度業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大が継続しており、特に北米市場や国内市場の構成割合が高い当社においては、合理的な算定が困難な状況にあることから未定としております。
また、配当予想につきましても、引き続き未定としておりますが、業績連動だけでなく、配当の安定性を重視する方針です。

2020年度 第1四半期連結業績概要

CITIZEN

(単位：億円)	2019年度1Q	2020年度1Q	前年同期比	
	実績	実績	増減率	増減額
売上高	699	368	▲47.3%	▲330
営業利益	18	▲56	-	▲74
営業利益率	2.6%	▲15.3%	-	-
経常利益	20	▲49	-	▲69
親会社株主に帰属する四半期純利益	9	▲67	-	▲76
為替レートの影響	¥111/USD ¥124/EUR	¥108/USD ¥118/EUR	-	-

3

第1四半期業績概要について、説明いたします。

売上高は368億円、前期比47.3%の減収となりました。

世界的なロックダウンによる店舗閉鎖や外出自粛要請の影響は大きく、主力事業である時計事業および工作機械事業が大きく売り上げを落としました。

広告宣伝費を前期比6割減となる16億円に抑制するなど、総固定費を実質ベースで前期比約120億円弱削減しましたが、主力事業の減収幅が大きかったため、

営業利益は56億円の損失となり、経常利益は49億円の損失となりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による工場や店舗等の操業停止に伴う固定費約20億円を特別損失として計上したこともあり、

親会社株主に帰属する四半期純利益は、67億円の損失となりました。

セグメント別業績推移

CITIZEN

		(単位：億円 / %：営業利益率)		前年同期比	
		2019年度 1Q 実績	2020年度 1Q 実績	増減率	増減額
売上高	■ 時計事業	335	120	▲64.1%	▲214
	■ 工作機械事業	157	100	▲36.0%	▲56
	■ デバイス事業	145	104	▲28.1%	▲40
	■ 電子機器他事業	60	42	▲29.8%	▲18
	合計	699	368	▲47.3%	▲330
営業利益	■ 時計事業	6 (2.0%)	▲38 (▲31.8%)	-	▲45
	■ 工作機械事業	26 (16.7%)	3 (3.7%)	▲85.8%	▲22
	■ デバイス事業	3 (2.4%)	▲7 (▲7.3%)	-	▲11
	■ 電子機器他事業	▲0 (1.2%)	▲3 (▲7.2%)	-	▲3
	消去又は全社	▲19	▲11	-	+7
	合計	18 (2.6%)	▲56 (▲15.3%)	-	▲74

4

続いて、セグメント別業績推移を説明いたします。

時計事業は、売上高は前期比64.1%減の120億円、38億円の営業損失となりました。

工作機械事業は、売上高は前期比36.0%減の100億円、営業利益は前期比85.8%減の3億円となりました。

デバイス事業は、売上高は前期比28.1%減の104億円、7億円の営業損失となりました。

電子機器他事業は、健康機器が増収となりましたが、プリンター関連は設備投資意欲の落ち込みを受け減収となったほか、事業撤退を進めていた宝飾事業が大幅な売上減となり、売上高は前期比29.8%減の42億円、3億円の営業損失となりました。

なお、今期より、電子機器事業をその他の事業に含めて記載しており、名称を電子機器他事業と変更しております。

<完成品販売>

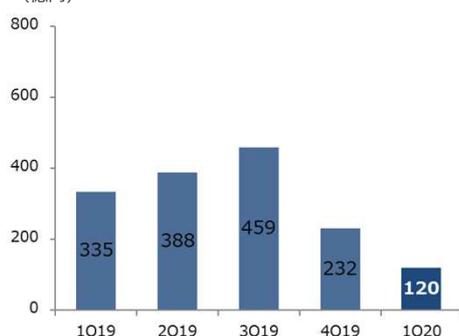
- 海外市場は、北米を中心にロックダウンに伴う店舗休業等の影響を受け、減収
- 国内市場は、インバウンド需要の激減と店舗休業の影響を受け、減収

<ムーブメント販売>

- 新型コロナウイルスの感染拡大により需要がさらに減少し、減収

売上高

(億円)



営業利益

(億円)



5

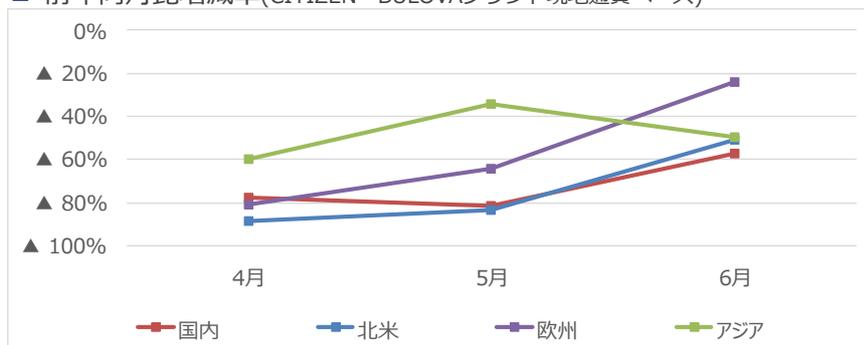
それでは、事業別の概況をご説明します。
まず、時計事業です。

完成品販売は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が世界的に及ぶ中、特に北米市場でロックダウンに伴う店舗休業の影響を大きく受けたほか、国内市場においてもインバウンド需要の激減と店舗休業の影響が響き、減収となりました。

また、ムーブメント販売についても、クォーツムーブメント需要は回復の見通しが立たない中、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響も加わり、売上が減少しました。

足元では、各国で経済活動が再開されており回復基調ではあるものの、新型コロナウイルスの感染拡大は進行しており、特に北米の市場動向については注視していく必要があります。

■ 前年同月比増減率(CITIZEN・BULOVAブランド現地通貨ベース)



■ 前年同期比増減率(CITIZEN・BULOVAブランド現地通貨ベース)

	1Q	備考
国内	▲72%	インバウンド需要の大幅な減少と緊急事態宣言に伴う店舗休業の影響から低調
北米	▲73%	4～5月のロックダウンの影響が大きかったものの、EC販売は比較的堅調
欧州	▲57%	ロックダウン解除後は比較的回復傾向(主にドイツ、イタリア)
アジア	▲48%	5月は中国で6月のECイベント向けのセルインが進んだため上昇

地域別の販売状況について、ご説明します。

国内は、インバウンド需要の大幅な減少と緊急事態宣言に伴う店舗休業の影響を大きく受け、4月、5月は大幅な減収となり、6月より回復基調になったものの、流通側の仕入れに対する慎重な姿勢もあり、緩やかな回復に留まりました。徐々に、セルスルーの実需に見合ったセルインになりつつあると見ています。

北米は、ロックダウンの影響を最も強く受けた地域で、6月から回復に向かっていくものの、新型コロナ感染拡大が継続している中、デパートなど実店舗流通が疲弊しており、先行き不透明感が継続しています。ただし、EC販売については、売上が回復傾向にあります。

欧州は、4月から5月にかけて他の地域と同様にロックダウンの影響を大きく受けましたが、ロックダウンが解除後、順調に売上が回復し、ドイツ、イタリアを中心に、堅調な販売状況となっています。

アジアは、EC販売比率が高く、状況が安定している中国が回復を牽引しています。特に、5月はECイベント向けのセルインが進んだため上昇しました。7月単月の販売をみると前年並みの実績となっています。その他アジア地域は、全般的に苦戦しているものの、台湾、ベトナム、シンガポールなどが比較的回復が早くなっています。

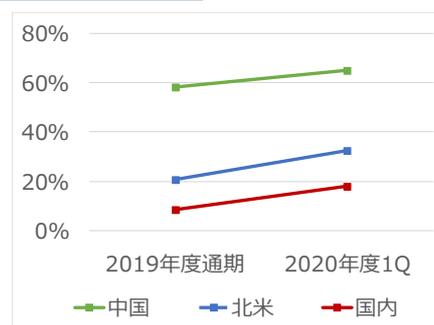
アナログクォーツムーブメントの生産規模を適正化

- 時計製造子会社における希望退職募集
- 機械式ムーブメントの収益改善



EC販売の強化

- 中国（EC販売比率：6割強）
EC販売は昨年水準まで回復
- 北米（EC販売比率：3割強）
直販サイト販売が堅調、
新たなオンライン流通の開拓を推進
- 国内（EC販売比率：2割弱）
オムニチャンネル化を推進



7

時計事業においては、抜本的な収益改善策を進めていますので、その進捗について簡単にご報告させていただきます。

先ず、ムーブメント外販ビジネスの需要縮小に伴う対応策として、クォーツムーブメントの生産規模の適正化を進めております。

既に適時開示をしておりますが、時計製造子会社のシチズン時計マニュファクチャリングにおいて希望退職の募集を実施します。募集人員は550名、退職日は2020年12月末を予定しています。

機械式ムーブメントは今後も安定した需要が見込めるため、コスト削減を着実に進め、段階的に値上げも実施し、ムーブメント外販ビジネスの収益回復に努めております。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、EC販売の重要性がますます高まっている中で、EC向け商品をさらに拡充するなどEC販売の強化を図り、売上拡大につなげていきます。

第1四半期の実績として、EC販売比率は、最も高い中国が6割強で、EC販売は前年並みに回復しています。北米は3割強、自社Eコマースが大きく伸びたほか、新たなオンライン流通の開拓も進めています。

国内は2割弱ですが、自社ECサイトを強化し、付加価値サービス機能の付与と、消費者を様々な流通につなげていくハブとしての役割を担うよう、取り組みを進めています。

- 国内市場は、自動車関連などの設備投資需要が低迷し、減収
- 海外市場は、中国が回復基調にあるものの世界的な投資需要の減退を受け、減収



8

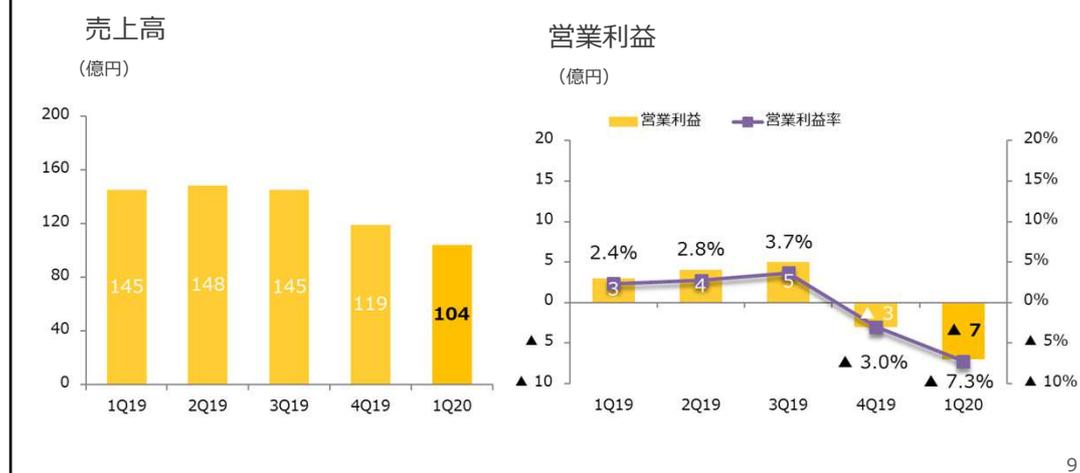
工作機械事業についてご説明します。

国内市場は主力の自動車関連を中心に設備投資需要が落ち込み、減収となりました。海外市場は、中国で医療向けやIT関連などで動きがあり、唯一需要に回復感が見られたものの、欧州、米国、その他アジア地域は総じて低迷し、減収となりました。

第1四半期の受注状況は低調なものとなりましたが、国内では自動車関連で一部、動く兆しが見えつつあり、欧州でも営業活動を順次再開できており、今後の受注回復を目指しているが、北米は営業活動もままならず、不透明な状況が続いています。

工作機械市場の需要回復については、今年の秋頃を想定していましたが、回復時期が後ろ倒しになる場合も想定して対応していく必要があると考えています。

- 精密加工部品：新車販売台数の減少から自動車部品が低迷し、減収
- オプトデバイス：車載向けLEDを中心とした一般LEDの不振等により、減収



続いてデバイス事業についてご説明します。

精密加工部品の内、自動車部品は新車販売台数の大幅な落ち込みを受け減収となったほか、スイッチもスマートフォン向け販売の不振により、売り上げを落としました。オプトデバイスの内、照明向けLEDは北米、欧州市場が伸び悩み減収となったほか、一般LEDの内、特に車載向けLEDが市場の不振を受け大きく落ち込み、減収となりました。その他部品の内、水晶デバイスは通信機器向け需要の増加を受け増収となりました。

最後に財務情報ですが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響が長期化する場合に備えて、金融機関から7月から8月にかけて合計350億円の借り入れを実施しました。

説明は以上となります。

CITIZEN